

# パルミラ語碑文(1)

酒 井 龍 一 \*

## Palmyrene Inscriptions 1

Ryuichi SAKAI

### はじめに

シリア・アラブ共和国に所在するパルミラ Palmyra 遺跡は、紀元前1～紀元後3世紀のオアシス隊商都市として日本でも有名である(小玉1980、ブソニ1980、Bounni and Al-as'ad 1988、他)。この度、(財)なら・シルクロード博記念国際交流財団は、シリア政府と共同し、1990～1992年度の3年間、この遺跡を発掘調査(樋口隆康団長・泉拓良隊長)することになった。

ところで、ベール神殿や列柱道路等による遺跡中核部の西方、「墓の谷」等の各所に、搭墓・地下墓・家屋墓・一般共同墓地が群在し、その多くにはパルミラ語碑文が刻まれている。碑文解説は、墳墓の建立者や年代・被葬者・被葬者達の親族関係等の特定に不可欠である。本稿では、インフォルトによるパルミラ碑文の解説文(Ingholt 1935)等をテキストにし、パルミラ碑文の初歩的な理解に努め始めたい。

### パルミラ語の系譜とその解説

パルミラ研究者・小玉による『パルミラ—隊商都市—』(1980)や古代語研究者・ガウアーによる『文字の歴史』(1984)等によれば、パルミラ語は原セム語から由来するアラム語の一方言で、現存の言語としてはヘブライ語に最も近いという。また、アラム文字から派生したパルミラ文字はヘブライ文字にはほぼ対応し、その草書体的形態は後のシリア文字との関係をもつ。アラム系言語の主な特徴には、22文字・右から左方向に進行・子音表示等がある。

これまで出土したパルミラ語碑文は、最古のものが紀元前44年付、対して最新のものは後274年付とされる(小玉1980)。小玉によれば、この300年間に字体は、少しずつ変化し、その字体から碑文の年代を30年程度きざみに判別できるという。遺跡の解説書やテキスト等にパルミラ文字が紹介される場合、各時代の特徴的な字形が並列されるのが一般的である(例えば、Geschichte ほか 1987)。

パルミラ語碑文の解説は、公的碑文にギリシャ語文と並記される例があること、セム語・アラム語・ヘブライ語・シリア語といった各種関係言語等から、既にはほぼ確立しているようである。そして、主な文法書として『GRAMMAIRE DE PALMYRENIEN EPIGRAPHIQUE』(J.Cantineau 1935)、碑文集に『Inscriptions Palmyreniennes』(Cantineau など1930～)、碑文中の人名集成に『Personal Names in Palmyrene Inscriptions』(J.K.Stark 1971)や、

本稿でテキストとする5墳墓の碑文の解説・英訳を試みた「FIVE DATED TOMBS FROM PALMYRA」(Ingholt 1935)等がある。

### 印字の作成

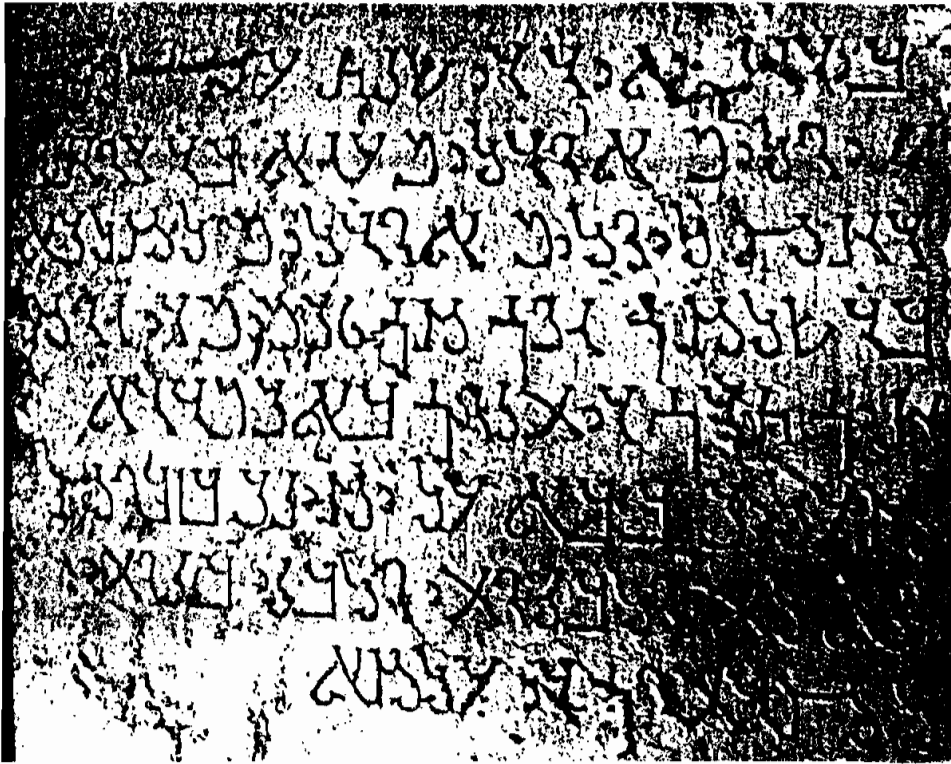
パルミラ碑文を収録し論文や出版物等に掲載する場合、手書き・草書体調のパルミラ文字の印刷活字がない理由で、対応する活字体調のヘブライ文字に変換するのが一般的である。カンティニューの文法書やインフォルトの碑文解説は、その実例である。別に、ドイツの研究者ならドイツ語、フランスならフランス語のアルファベット活字に変換し掲載する方法もとられる。例えば、「INSCRIPTIONS PALMYRENIENNES INEDITIES」(Bounni 1961)や『RECUEIL D'INSCRIPTIONS PALMYRENIENNES』(Gawlikowski)は、パルミラ文字文をフランス語アルファベットに変換させ紹介している。

だが、実際の碑文とちがう言語や文字では、視覚的にも異なり、両者の対応や理解も間接的となる。そこで先ず、碑文をオリジナルなパルミラ文字そのもので表示可能とするため、実際の碑文に刻される文字をレタリングし、ワープロに外字を作成することから始めた。外字の素材は、インフォルトによる、西暦241年付の「マルクの墓」碑文の写真図版(図1)である。下掲の上段はそのパルミラ文字、中段は対応するヘブライ文字、下段は字訳である。

𐤁	𐤂	𐤃	𐤄	𐤅	𐤆	𐤇	𐤈	𐤉	𐤊	𐤋	𐤌	𐤍
mēm	lāmedh	kaph	yōdh	tēth	hēth	zāyin	wāw	hē	dāleth	gīmel	bēth	'āleph
m	l	k	y	ṭ	ḥ	z	w	h	d	g	b	'
𐤎	𐤏	𐤐	𐤑	𐤒	𐤓	𐤔	𐤕	𐤖	𐤗	𐤘	𐤙	𐤚
𐤛	𐤜	𐤝	𐤞	𐤟	𐤠	𐤡	𐤢	𐤣	𐤤	𐤥	𐤦	𐤧
語末用			tāw	šīn	reš	qōph	šādhē	pē	'āyin	sāmekh	nūn	
k	n		t	š	r	q	š	p	'	s	n	

そこで、マルクの碑文を例に、このワープロ文字で打ちだしてみよう。

𐤁𐤃𐤃𐤁𐤃	𐤆𐤃𐤃	𐤄	𐤉	𐤊𐤃	𐤌𐤃	𐤍	1
𐤂𐤃𐤆𐤃𐤄	𐤄𐤃	𐤁𐤃𐤃	𐤃	𐤂𐤃𐤄𐤃𐤁𐤃	𐤃	𐤂𐤃𐤄𐤃	2
𐤁𐤃𐤃𐤆𐤃	𐤃	𐤂𐤃𐤄𐤃𐤁𐤃	𐤃	𐤂𐤃𐤄𐤃	𐤃	𐤆𐤃𐤄𐤃	3
𐤆𐤃𐤄	𐤄	𐤃	𐤃𐤃𐤆	𐤃𐤃	𐤃𐤃𐤄	𐤃𐤃𐤆𐤃	4
𐤁𐤃𐤄𐤃𐤃𐤁𐤃	𐤃𐤃𐤄𐤃	𐤄	𐤃𐤃𐤆	𐤃	𐤃𐤃	𐤃	5
𐤆𐤃𐤄𐤃𐤁𐤃	𐤃𐤃𐤆𐤃	𐤃	𐤃	𐤃	𐤃𐤃	𐤃	6
𐤄𐤃𐤄𐤃	𐤃	𐤃𐤃𐤆𐤃	𐤃	𐤃𐤃𐤄𐤃	𐤃𐤃	𐤃	7
𐤁𐤃𐤄𐤃	𐤄	𐤃𐤃𐤆𐤃	𐤃	𐤃𐤃𐤄𐤃	𐤃𐤃	𐤃	8



図一 1 パルミラ語碑文例 (Ingholt 1935)

インフォルトはこの碑文を、次のようなヘブライ文字に転換し紹介している。

DL	כ'ר'ה א'ר ד'י ש'נ'ח	1
II	ל'ו ל'י ס אור ל'י ס ע'נ'א כ'ר ר'ו'ח כ'ל	2
3	ר'ח'ק' ל'י ל'י ס אור ל'י ס ל'מ'ל'כ'א	
4	כ'ר ש'ל'מ'ן נ'פ'ן מ'ן ט'כ'ס'י ס ד'י נ'ו'ם	
5	ה'י'ן ח'ר'ן ד'י ה'נ'ו'ן כ'א'כ'ס'ד'ר'א	
6	מ'ע'ל'י'ך כ'ב'א ע'ל י'מ'י'ך ב'ז'ב'ו'ק'	
7	ת'א ל'ה ו'ל'כ'נ'ו'ה'י ו'ל'כ'נ'י כ'נ'ו'ה'י	
8	ל'י'ק'ר'ה'ו'ן ד'י ע'ל'מ'א	

このように、両者は文字の形状が近似しており、その対応関係の把握は容易である。なお、パルミラ文字文で語末に「𐤌」がくる場合、語末用の「𐤌」に置き換わる。ヘブライ文字文では「כ」には語末用の「ך」が、「ס」には「י」が用いられる。

#### パルミラ碑文の内容

インフォルトは、アテナタン、ジュリアス・アウレリアス・メール、マルク、ナスラト、そしてバラ-墓という5基、38碑文例をヘブライ文字に変換・紹介し、英訳・解説をしている。

先ず、アテナタン墓の碑文を例に、その内容を観察していこう。上は彼によるヘブライ文字文、下はそれを筆者がパルミラ文字に転換したものである。

מַעֲרָהָא דְהָא עֲבָד עֲתַנְתָּן בְּרַ זְבַדְעָהָא	1
בְּרַ יְרִי בְרַ חִימִי לְהָא וְלְחַיִּירִן אַחֵיהָי	2
בִּיְרַח תְּשֵׁרִי CCCCX שְׁלָם	3

ⲙⲉⲁⲣⲁⲏⲁ ⲉⲃⲁⲧⲉⲏ ⲉⲧⲉⲛⲁⲧⲁⲛ ⲛⲓ ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ	1
ⲛⲓ ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ	2
ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ	3

インフォルトによる英訳は、次のとおりである（以下の英訳は、すべてインフォルトによる）。

This cave, 'Atenatan, son of Zabd'ateh, son of Yaddai, son of Taimī, made for himself and for Hairan., his brother, in the month of October 410. Peace.

この碑文は、基本的には、建立者・彼の系譜・製作の目的・年月・祈念という内容で、右端から、主体となる墳墓（この墓）→動詞（建立した）→建立者（アテナタン）、続いて建立者の系譜、建立の対象、そして建立月と年、最後に「平和を！」という祈念の言葉の順となる。多くの墓碑文は、おおむねこうした内容となる。

ところでインフォルトは、巻末に簡単な「単語集」を提示しているが、すべての各単語個々の対応を示しているわけではない。パルミラ単語の収集をするためには、碑文と訳文を対照させて、個々の対応関係を特定していく作業が必要になる。そこで、この作業を始める。ついては、次のようなことが対照のキーポイントになる。

1. パルミラ語の人名と英文アルファベットの人名と発音は近似するので、先ず両者の対応関係は特定しやすい。
2. 人名の前には親族関係を示す単語が、また建立や譲度の年代を示す数字の前には「月」や「年」を示す単語があるので、これらの単語の特定も容易である。
3. 数字については、既に解説がある（小玉 1980、ほか）

このポイントを踏まえながら作業を行なうと、次のような対応関係が想定できる。

<u>ⲙⲉⲁⲣⲁⲧⲉⲏ</u>	<u>ⲉⲧⲉⲛ</u>	<u>ⲉⲧⲉⲛⲁⲧⲁⲛ</u>	<u>ⲙⲉⲁⲩⲉ</u>	<u>ⲙⲁⲩⲉ</u>	<u>ⲙⲁⲩⲉ</u>
Zabd'ateh	son	'Atenatan	made	this	cave
<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>	<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>	<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>	<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>	<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>	<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>
his brother	and for	Hairan	for himself	Taimī	son Yaddai son
<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>	<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>	<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>	<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>	<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>	<u>ⲛⲉⲧⲉⲛ ⲛⲓ</u>
peace	410	October	month		

先ず「𐤀𐤅𐤍𐤏𐤍」は、アルファベットに置き換えると「NTNT'」となる。このうち「𐤀」は語末用の「N」で、また「y」はヘブライ文字の「א y i n」で「A」に相当する。従って、これは人名の「ATENATAN」であろう。「𐤏𐤅𐤍𐤏𐤍𐤏」は「HT' DBZ」なので、人名の「ZABD'ATEH」に、また「𐤏𐤏𐤍」は「YDY」なので、「YADD AI」に該当する。同様に、「𐤏𐤏𐤍𐤏」は「TAIMI」となる。

では「𐤀𐤏𐤏𐤍𐤏」はどうであろうか。アンダーラインの部分は「NRYH」なので、「HAIRAN」に相当することは直ちに分かる。しかし、その前の「𐤏𐤏𐤍」が問題となる。これについては、検討の結果、「𐤏𐤏」は「and」、「𐤍𐤏」は「for」という意味の「接頭字」と判断できる。従って、全体で「and for Hairan」ということになる。

また、先頭の Atenatan を除き、3人の人名の前にはすべて「𐤏𐤏𐤍」があり、それは「son」であることは明らかである。

また、他の碑文との比較で、年号である数字の前には通例「年」を表わす「𐤏𐤏𐤍」があるが、この碑文には欠落していること、「月」を意味するのが「𐤏𐤏𐤍𐤏」で、それに続く「𐤏𐤏𐤍𐤏」が「October」であることも理解できた。

最後の「𐤏𐤏𐤍」は、「平和!」という祈念の言葉で、彫像等の短い碑文にも度々みられる単語である。

こうした作業を重ねながら、アテナタン墓の別の碑文をとりあげる。

<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍𐤏</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍𐤏</u>
when you enter	cave	inside	which	house of eternity	this		exedra
<u>𐤏𐤏𐤍𐤏</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍</u>	<u>𐤀𐤏</u>	<u>𐤏𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏𐤍</u>	<u>𐤀𐤏</u>	
and built	from own purse	made		to the right	door	from	
<u>𐤏𐤏𐤍𐤏</u>	<u>𐤏𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏</u>	<u>𐤏𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍𐤏</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍</u>	
Dūhi	Maqqai	Zebdibōl	son	Maqqai	Aurelius	Julius	
<u>𐤏𐤏𐤍𐤏</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍𐤏𐤍𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏</u>			
males	and for the sons of his sons	and for his sons	for himself				
	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏</u>	<u>𐤏𐤏𐤍</u>	<u>𐤀𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍</u>	<u>𐤏𐤏𐤍𐤏𐤍𐤏</u>		
	540	year	April	month	forever		

This exedra, house of eternity, which is inside the cave, when you enter from the door to the right, Julius Aurelius Maqqai, son of Zebdibōl, (son of) Maqqai, (son of) Dūhi, has made from his own purse and built for himself and for his sons and for the sons of his sons, the males, forever. In the month of April, year 540.

同じく、メール墓の碑文をあげる。

<u>א · 6 ב ג ד</u>	<u>· 4</u>	<u>ה · 5 ו ז ח ט</u>	<u>א ב ג ד</u>	<u>ה ז א</u>	<u>א · 6 ב ג ד</u>	
street	in which	complete	three	these	niches	
<u>א · 6 ב ג ד</u>	<u>א ב ג ד ה ו ז ח ט י</u>	<u>י א ב</u>	<u>ג ד ה ו ז ח ט י</u>	<u>א · 6 ב ג ד</u>	<u>ז · 8 ח ט י</u>	
first	kerkis	after	to your left	street	when you enter	
<u>ה ז א</u>	<u>ב · 3 ג ד א</u>	<u>י א ב</u>	<u>א ב ג</u>	<u>ב · 3 ג ד א</u>	<u>ב · 3 ג ד א</u>	<u>ה ו ז ח ט י</u>
Ḥairan	Aurelius	son	Malê	Aurelius	to Julius	transferred
<u>א ב ג ד ה</u>	<u>ב · 3 ג ד א</u>	<u>ב · 3 ג ד א</u>	<u>ה ו ז</u>	<u>ה ז א</u>	<u>א ב ג</u>	<u>י א ב</u>
Ḥalaftâ	Aurelius	to Julius	Sasan	Ḥairan	Malê	son
	<u>· 4 ז ח ט י</u>	<u>א ב</u>	<u>א ב ג ד</u>	<u>ה ו ז ח ט י</u>	<u>י א ב</u>	
	and for his sons	for himself	Zabdê	Moqîmû	son	
<u>1 2 3 4 5 6</u>	<u>א ב ג</u>	<u>ד ה ו</u>	<u>ז ח ט י</u>	<u>א ב ג ד</u>	<u>ה ז א ב ג ד</u>	<u>ה ז א ב ג ד</u>
546	year	February	month	forever	and for sons of his sons	

These three complete niches which are in the street, when you enter the street to your left after the first kerkis, transferred Julius Aurelius Malê, son of Aurelius Ḥairan, son of Malê, (son of) Ḥairan, (son of) Sasan, to Julius Aurelius Ḥalaftâ, son of Moqîmû, (son of) Zabdê, for himself and for his sons and for the sons of his sons, forever. In the month of February, year 546.

ナスラト墓の碑文例をあげる

<u>י א ב</u>	<u>ג ד ה ו</u>	<u>י א ב</u>	<u>ג ד ה ו ז</u>	<u>א ב ג</u>	<u>ד ז א</u>	<u>א ב ג ד</u>	<u>ה ז</u>
son	Malkû	son	Naşrallat	made	this	house of	eternity
<u>· 4 ז ח ט י</u>	<u>א ב ג ד</u>	<u>א · 6 ב ג ד</u>	<u>· 4 ז ח ט י</u>	<u>א ב</u>	<u>ג ד ה ו ז</u>	<u>א · 6 ב ג ד</u>	
and for sons of his sons		male	his sons	for himself	Naşrallat		
<u>א ב ג</u>	<u>ה ז א</u>	<u>ב · 3 ג ד א</u>	<u>א ב ג ד</u>	<u>· 4</u>	<u>ה ז א ב ג ד</u>	<u>א · 6 ב ג ד</u>	
year	June	month	forever		in their honor	male	

1 1 1 2 3 4 1 1 1  
453

This eternal house Naşrallat, son of Malkû, son of Naşrallat, made for himself and his sons, the male ones, and for the sons of his sons, the male ones, in thier honour, forever. In the month of June, year 453.

バラ-墓の例をあげる。3行目の「𐤁𐤃」は理解が及ばない。

𐤁𐤃   𐤁𐤃𐤍𐤏𐤓   𐤁𐤃   𐤁𐤓𐤁𐤀   𐤁𐤓𐤓   𐤁𐤏𐤓𐤓𐤓𐤁𐤀𐤃   𐤁𐤃   𐤁𐤀𐤓𐤓𐤓  
son   Bonnûr   son   Bar'â   made   house of eternity   this   cave

𐤁𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓   𐤁𐤓   𐤓𐤓𐤏𐤓   𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓   𐤁𐤓𐤁𐤀  
and for his sons   for himself   Toshabebe   Zabd'ateh   Bar'â

𐤓𐤓𐤓𐤓   𐤁𐤏𐤓𐤓   𐤁𐤃   𐤁𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓   𐤁𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓   𐤁𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓  
month   forever   in thier honour   and for sons of his sons

𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓   𐤓𐤓𐤓   𐤁𐤃   𐤁𐤓𐤓𐤓  
497   year   April

This cave, house of eternity, Bar'â, son of Bonnûr, son of Bar'â, (son of) Zabd'ateh, (son of) Toshabebe has made for himself, and for his sons and for the sons of his sons in thier honour forever. In the month of April of the year 497.

このように、碑文の内容はよく似たものが多い。別に、次のような短い碑文もある。すなわち、これまで紹介したような、墓の建立や墓室の譲渡を記すやや長文（Aタイプ）と、彫像等の人名を主とする短文（Bタイプ）の、大きくは2タイプの碑文がある。後者のアテナタン墓の碑文を例示する。

𐤓𐤓𐤓   𐤁𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓   𐤁𐤓𐤓   𐤁𐤃   𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓   𐤁𐤃   𐤓𐤓𐤓𐤓   𐤓𐤓𐤓𐤓  
this   exedra   built   who   Zebadböl   son   Maqqai   image

Image of Maqqai, son of Zebadböl, who built this exedra.

メ-ル墓の別の例である。

𐤁𐤓𐤓𐤓   𐤀𐤓𐤓   |   𐤁𐤓𐤓𐤓𐤓𐤓   𐤓𐤓𐤓  
'Abissai   daughter   Batsamaia   Alas

Alas, Batsamaia, daughter of 'Abissai.

こうした作業を、掲載された全碑文について実施して、パルミラ単語の収集と、碑文内容・構文の概略・基本的な文法等の理解に努めた。

全体として、碑文の多くは、建立者や被葬者・譲渡・売買先の人名・建立者の祖先や家族等の人名を表わす単語を主体とし、親族関係や墳墓の部分名称等を示す名詞、建立の年月や納体室数等にかかわる数字や数詞、祈願や感嘆を示す単語、方向や位置等を示す形容詞句等、あるいは様々な指示や人称代名詞・接続詞・接頭接尾語・前置詞・副詞・関係代名詞・語形変化等が付け加わって構成されている。また、刻像等に刻される短い碑文は、像の主体者たる人物名

とその系譜を主体に、「Image ~の像」という単語や、「Alas アー・悲しいかな」といった感嘆詞等がつくものが一般的である。

### 建立年代の表現

墓碑文の解説で最も得たい情報は、その造営年代と被葬者名である。幸いにも、パルミラ墓碑文には両者とも一般的に見い出せる。

先ず前者については、墓入り口等の碑文に、その造営や納体室の譲渡の年月が示されることが多い。その文章中の位置は文末か文頭であり、「建立月と年」が記される。その順序は、先ず月 (=𐤍𐤅𐤃𐤅)・・・、続いて年 (=𐤁𐤏𐤃)・・・である。

これらの建立や譲渡の年代の表記は、いわゆるキリスト西暦でなく、「セレウコス紀元」(Seleucidan era)でされる。これは、アレクサンドリア大王が派遣したバビロニア総督・セレウコス1世が起こした王朝=前312年10月1日を紀元とする。従って、実際に表記される数字から311年あるいは312年を引算することにより、西暦に勘算できる。例えば、先のセレウコス410年は西暦98年、同546年は西暦235年となる。

ここで、各月のパルミラ単語と、年代の表現方法を例示しておく。

(𐤍𐤅𐤃𐤅)	(month)
𐤍𐤅𐤃𐤅	October
𐤏𐤏𐤃𐤃	November
𐤏𐤏𐤃𐤃𐤃	December
𐤁𐤏𐤃	January
𐤃𐤏𐤃	February
𐤅𐤅𐤏	March
𐤏𐤏𐤃	April
𐤅𐤅𐤏	May
𐤏𐤏𐤃𐤃	June
𐤏𐤏𐤃𐤃𐤃	July
𐤃𐤏𐤃	August
𐤏𐤏𐤃𐤏𐤏	September

数字はどうか。例えば、「𐤏𐤏𐤃𐤃𐤃 𐤁𐤏𐤃」は、セレウコス暦410年をあらわすが、その数字表現の内訳は下のようになる。100と10を表わす字形「𐤏」は同じだが、その位置により区別される。1および10の位では各数字は足し算、百の位では掛け算となる。そして552年は西暦241年、および524年は西暦213年となる。

𐤏	100			
𐤃	20	$\frac{𐤏}{10} + \frac{𐤏𐤏𐤃𐤃}{100 \times 4}$	=410	$\frac{𐤏𐤏𐤃𐤃}{4} + \frac{𐤃}{20} + \frac{𐤏𐤏}{500}$
𐤏	10			=524
𐤏	5			
𐤏	1	$\frac{𐤏𐤏}{1+1} + \frac{𐤏𐤃𐤃}{10+20+20} + \frac{𐤏𐤏}{100 \times 5}$	=552	



### 建立者・系譜等の表現

墳墓入り口等の碑文には、その建立者や納体室の譲渡者等の、内部の刻像等にはその人物名が刻される。建立者や譲渡者等の主体者名が、右文頭最初に位置する文章では、それを発見するのは比較的容易である（上段例）。しかし、多くが「目的語→動詞→主語（主体者）」という語順なので、発見に注意する必要もある（下段例）。

... 𐤀𐤆𐤌𐤕 𐤏𐤕𐤏𐤏 𐤓𐤕𐤏𐤏𐤏 𐤓𐤕 𐤀𐤒𐤓  
to Malkū transferred Rauhibel son 'Oggā

'Oggā, son of Rauhibel, transferred to Malkū ...

... 𐤀𐤏𐤏𐤏 ... 𐤏𐤏𐤏𐤏 𐤏𐤏 𐤀𐤏𐤏𐤏𐤏  
'Atenatan made this cave

This cave, 'Atenatan made for himself ...

主体者の系譜は、「～の息子～ 𐤓𐤕」等といった表現の連続で示されるのが一般的である。主体となる人物名とは別に、建立や譲渡先を示す「～の為に for、～に対して to」という場合は、人物名のはじめに「𐤓」という文字が接頭語として付加される（例 𐤓𐤀𐤆𐤌𐤕𐤏𐤏）。筆者のように、人物名と一般単語等との区別もできない初心者は、長文における人物部分の特定は、親族関係を表わす「息子・娘・父・母・妻・・・」等の単語を発見し、それに続く文字群を人物名と仮定・検討することが手助けとなる。主体者はそれらの前に位置する。

ここで、親族関係を表わす主な単語を掲げておく。

𐤓𐤕	son
𐤏𐤏	daughter
𐤏𐤏𐤏𐤏	father
𐤏𐤏𐤏𐤏	mother
𐤏𐤏𐤏	wife
𐤏𐤏𐤏	children

短文タイプの碑文では、文頭の「像 image 𐤏𐤏𐤏」や「アァー Alas 𐤀𐤏𐤏」等の語に続いて、その人物名が出てくることが多い。

いずれも個人名が特定できた場合、スタークによるパルミラ碑文人物名索引（J.K.Stark 1971）で検索することになる。

### 墓に関する単語

墓碑文には当然、墓に関係する単語が多く含まれる。例えば、墓は永遠の家 house of eternity (𐤀𐤏𐤏𐤏 𐤏𐤏) として認識されたようだ。また、地下墓は「cave 𐤀𐤏𐤏𐤏𐤏」と表現されることが多い。これまで採集できた墓に関する単語を順不同で掲げる。

左列はインフォルト1935（英文）から

右列はカンテニュー1935（仏文）から

𐤀𐤁𐤓𐤙𐤅𐤃	house of eternity	𐤀𐤛𐤑𐤓	monument funeraire
𐤀𐤁𐤑𐤙𐤁	cave	𐤀𐤛𐤑𐤙	lit
𐤅𐤓𐤓𐤑𐤓	entrance	𐤀𐤙𐤑𐤅	porte
𐤙𐤁𐤓𐤑𐤓	niche	𐤀𐤁𐤁𐤓𐤓𐤑	statue feminine
𐤀𐤓𐤓𐤑𐤙𐤁	kerkis	𐤅𐤓𐤓𐤑𐤓	cadavres
𐤀𐤑𐤙𐤓𐤓𐤑𐤙	exedra	𐤀𐤓𐤓𐤑𐤓	stele de pierre
𐤀𐤃𐤃𐤃	door	𐤀𐤑𐤙𐤓𐤓𐤑	sepulture
𐤀𐤑𐤓𐤓𐤑	wall	𐤀𐤓𐤓𐤑𐤓𐤓	sculpteur
𐤀𐤓𐤓𐤑𐤙	couch	𐤀𐤙𐤑𐤙𐤙	colonne
𐤀𐤓𐤓𐤑	image	𐤀𐤙𐤑𐤅	porte
𐤀𐤓𐤓𐤑𐤙	street	𐤀𐤁𐤓𐤙	autel
𐤀𐤓𐤓𐤑𐤙	street	𐤀𐤁𐤙𐤙𐤙𐤙	sacrifice
𐤀𐤓𐤓𐤑	vaulted chamber	𐤀𐤁𐤓𐤙	etage superieur(d'un tombeau)
𐤀𐤑𐤙𐤙	corner		

また、墳墓中央の通路に面し複数の墓室が設けられるが、墓室の位置は東西南北、あるいは左、右方向で示されることが多い。関係する単語を掲げる。

𐤀𐤙𐤓𐤙𐤙	eastern
𐤅𐤓𐤓𐤑𐤙𐤙	western
𐤀𐤓𐤓𐤑𐤙	southern
𐤀𐤓𐤓𐤑𐤙	nothern
𐤀𐤓𐤓𐤑𐤙𐤙	to the left
𐤀𐤓𐤓𐤑𐤙𐤙	to the right
𐤅𐤓𐤓𐤑𐤙	when you enter

### 墓の建造と墓室の譲渡

墓碑文の内容の多くは、墳墓の建造および墓室の譲渡にかかるものが主体をなす。関係する単語を掲げる。

𐤓𐤙𐤙𐤑	transferred
𐤙𐤙𐤙	made
𐤀𐤓𐤓𐤑	built
𐤀𐤓𐤓𐤑𐤙	and built
𐤙𐤙𐤙𐤙	𐤅𐤓 from his own purse
𐤙𐤙𐤙𐤙𐤙𐤙	𐤙𐤙𐤙 give and make partner
𐤓𐤙𐤙𐤑𐤙	𐤙𐤙𐤙𐤙 has given into partnership and ceded

墓の建立や納体室の譲渡する文章には、「彼自身のために」、「彼の息子のために」、「彼らの息子たちのために」といった単語群を伴うことが多い。関係するものをいくつか掲げておく。なお、「𐤑」は「そして」、「𐤓」は「一のために」、「𐤑𐤙𐤙」は「そして一のため

に」を意味する接頭字とみられる。

	𐤆 𐤃	for himself · for herself
	𐤓 𐤆 𐤃 𐤃	for them
	𐤓 𐤆 𐤃 · 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃	and for thier sons
𐤓 𐤆 𐤃 · 𐤃 𐤃	𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃	and for sons of thier sons
	𐤃 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃	and for his sons
𐤃 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃	𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃	and for sons of his sons
	𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃	and for her sons
𐤆 𐤃 𐤃	𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃	and for sons of her sons

### 指示形容詞や数詞等

右端文頭等の、墓室や納体室を示す単語の「後」には、度々、this や these のような指示形容詞をみる。名詞には、男性・女性形、単数・複数形があり、指示代名詞にもそれに応じた変化形が使われる。例えば、二人称・男性形・単数の「exedra 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃」には「this 𐤆 𐤃 𐤃」が、女性形・単数の「cave 𐤆 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃」には「this 𐤆 𐤃 𐤃」が、複数形の「niches 𐤆 · 𐤆 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃」には「these 𐤓 𐤃 𐤃 𐤃」がつく。

<u>𐤆 𐤃 𐤃</u>	<u>𐤆 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃</u>	<u>𐤆 𐤃 𐤃 𐤃</u>	<u>𐤆 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃</u>
this	cave	this	house of eternity
<u>𐤆 𐤃 𐤃 𐤃</u>	<u>𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃</u>	<u>𐤓 𐤃 𐤃 𐤃</u>	<u>𐤆 · 𐤆 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃</u>
this	exedra	these	niches

墓碑文において数詞は、譲渡される niche 数を示す場合に最も多く用いられる。複数形 (niche 等の場合) は、「𐤓 · 𐤆 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃」複数を示す接尾辞が付加される。所有代名詞の人称と数による接尾辞は、次のようになる (Cantineau 1935)。

	男性形	中性形	女性形
1人称 単		𐤃	
1人称 複		𐤓	
2人称 単	𐤃		
2人称 複			
3人称 単	𐤆 · 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃	𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃	𐤆
3人称 複	𐤓 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃	𐤓 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃 𐤃	

インフォルトのテキストからは、1～6の数詞を採集できた。カンテニューの文献からと併せて、1～10までの数詞を提示しておく。

𐤆 𐤃 𐤃 · 𐤆 𐤃 𐤃	one
𐤓 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃 · 𐤓 𐤆 𐤃 𐤃 𐤃	two

𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 . 𐤄 𐤅 𐤆	three		
𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄 𐤅 . 𐤆 𐤇 𐤈 𐤉	four	<u>𐤀 𐤁</u>	<u>𐤂 𐤃 𐤄 𐤅</u>
𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 . 𐤄 𐤅 𐤆	five	one	niche
𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄		<u>𐤀 𐤁 𐤂 𐤃</u>	<u>𐤄 . 𐤅 𐤆 𐤇 𐤈</u>
𐤀 𐤁 . 𐤂 𐤃 𐤄	six	three	niches
𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄 . 𐤅 𐤆 𐤇 𐤈	seven		
𐤀 . 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄	eight	<u>𐤀 𐤁 𐤂 𐤃</u>	<u>𐤄 𐤅 𐤆</u> <u>𐤇 . 𐤈 𐤉 𐤊 𐤋</u>
𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 . 𐤄 𐤅 𐤆 𐤇	nine	three	these   niches
𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄 . 𐤅 𐤆 𐤇	ten		

### 関係代名詞

関係代名詞として「𐤀, 𐤁」が用いられる。人を先行詞とする場合と、モノを先行詞とする場合がある。

例

𐤀 𐤁 𐤂   𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄 𐤅   𐤀 𐤁 𐤂   𐤀 𐤁   𐤂 𐤃 𐤄 𐤅 𐤆 𐤇

this   exedra   built   who   Zebadböl

(続)

### 付記

私が初めてパルミラ文字をみたのは、なら・シルクロード博記念国際交流財団によるパルミラ遺跡の発掘に隊員として参加することになった2か月前のことである。必要が生じて、パルミラ研究者である小玉新次郎副団長から、基本的な文献の貸与と丁寧なアドバイスをいただきながら、隊員研究会において解説のための初歩学習を始めた次第である。従って本稿にはかなりの誤りを含み込む。より適切な解説テキストの作成にむけ、この作業を継続していきたい。文末ながら、小玉先生および諸隊員の御協力に感謝の意を表します。

### Summary

The Nara International Foundation (Commemorating the Silk Road Exposition), jointed with the government of Syrian Arab Republic, has an archaeological project to excavate the Palmyra site in Syria, during 1990~1993. Palmyra, one of great ancient city states of the 1st century B.C.~3rd century A.D., located at the western end of the SILK ROAD.

This is a guide note for reading Palmyrene (a dialect of Aramic) inscriptions found inside the funeral tombs in the site.